



顧客本位の業務運営に関する取り組み状況

2019年3月現在

UBS アセット・マネジメント株式会社

1. Client Experience 向上会議による取り組み

「顧客本位の業務運営を確立するための取り組み方針」の下、「Client Experience 向上会議」において、取り組み方針の年次見直しを実施し、変更の必要が無いことを確認いたしました。

また、これまでの取り組みに対する有効性の検証や改善点、開示する成果指標(KPI)について議論を重ね、KPI として、リスク委員会でモニタリングを行っている各ファンドのリスク調整後リターンに関連する情報を年2回開示することといたしました。

なお、前回までに開示した個々の取り組みの進捗状況は以下の通りです。

「重要な情報の分かりやすい提供」への継続的な取り組み

• 販売用資料および目論見書における取り組み

投資家であるお客様に当社が提供する運用商品の特長やリスクを分かりやすくお伝えするため、運用商品の特性を的確に伝える表現や図表、読みやすいフォントの使用など、販売用資料および目論見書の改善に順次取り組んでいます。

加えて、販売用資料では、経済動向や今後の成長見通しなどを交えて、お客様の中長期の資産形成に資すると当社が考える運用商品の魅力を分かりやすく伝える工夫に取り組んでおります。

Client Experience 向上会議では、「重要な情報の分かりやすい提供」の大きな柱である、販売用資料および目論見書における取り組み状況を各ファンドの開示項目ごとに定期的に確認を実施しております。

• 投資関連情報の提供力強化への取り組み

お客様の投資対象の拡大に伴い、当社が提供する運用商品のうち、お客様にとって投資関連情報の入手が容易でない市場を投資対象とする商品の重要性が増しております。

当社では、情報ソースの拡大に取り組み、お客様に運用商品への理解をより深めて頂くための支援材料として、ファンドに直結する情報のみならず現地の経済動向や時事問題などの関連情報に関するセミナーの開催、関連レポートを当社ウェブサイトに開示するなど、投資関連情報の提供力強化への取り組みを継続しております。

• 当社ウェブサイトのトップページ改訂

当社が発信する投資関連情報の『見やすさ』、『分かりやすさ』をさらに改善させる目的で、当社ウェブサイトのトップページを改訂いたしました。

「顧客中心主義」を意識したサービス・クオリティの維持

- 投資家のお客様から直接頂いたお問い合わせに迅速かつ的確にお答えする体制を継続的に強化すべく、営業部門とクライアント・サービス部の連携を強化、「顧客中心主義」を意識したサービス・クオリティを維持しております。

プロダクトレビュー会議による網羅的な検証

- プロダクトレビュー会議において、設定後一定期間を経過した『ファンドの持続可能性』や『顧客満足度』に加え『適合性の確認』などを四半期に 1 度実施し、お客様のニーズを満たす質の高いサービスを継続的に提供していることを確認しております。

リスク委員会における継続的な協議

- 月次で開催されるリスク委員会において、運用ガイドライン遵守状況や取引先相手のリスクの確認、市場リスクのモニタリングだけでなく、各ファンドリターンにおいて想定するリターンからの乖離状況の確認を行い、お客様の最善の利益の追求を目指した運用が継続されていることを確認しております。また、四半期に 1 度、各ファンドのリスク調整後リターンについてのモニタリングを行い、月次の確認項目と合わせて改善策等の協議を継続しております。

2. KPI の開示について

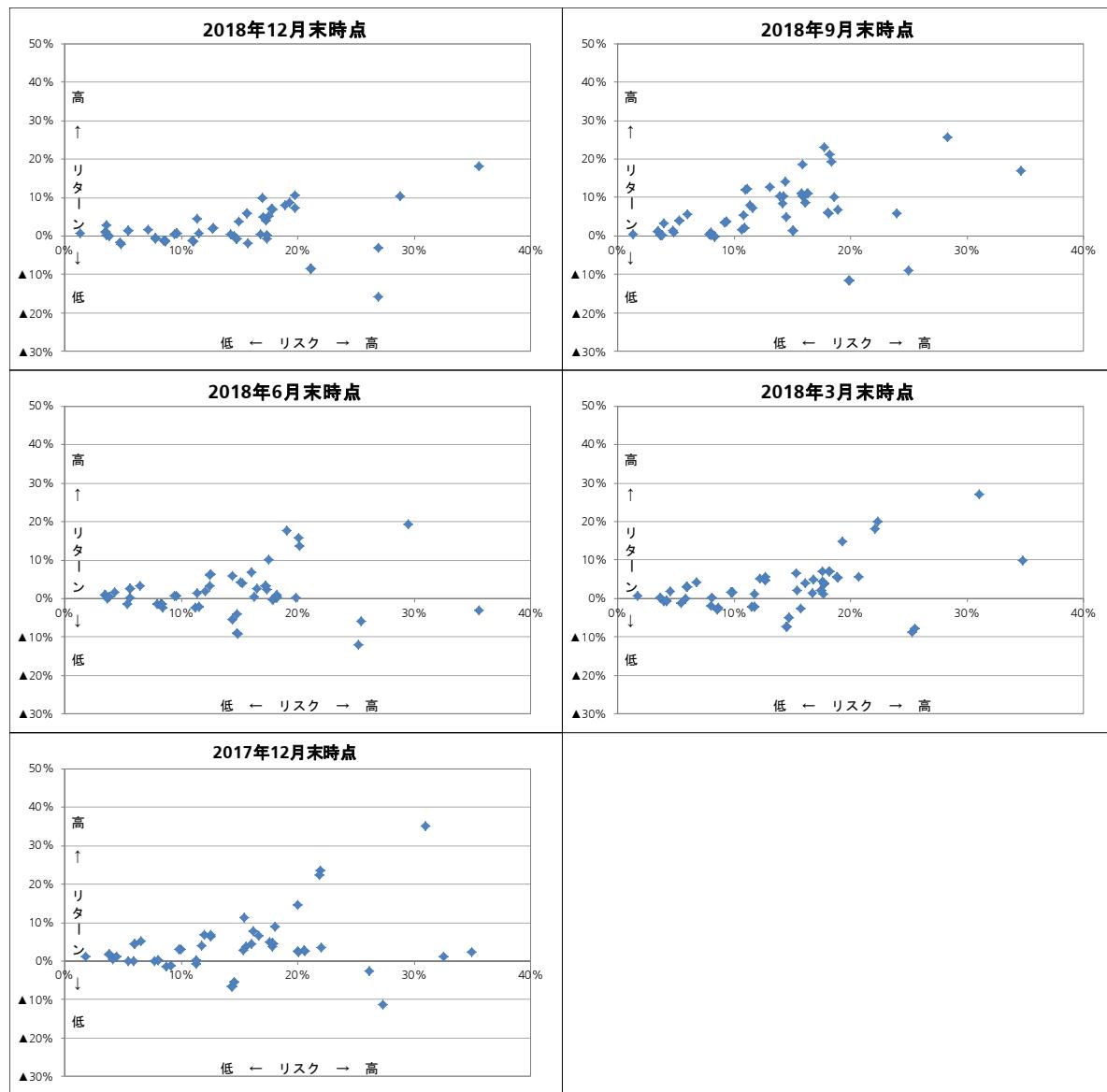
Client Experience 向上会議は、当社が開示する KPI として、各ファンドのリスク・リターンの分布状況について過去 1 年分(5 四半期分)を年 2 回開示することといたしました。

これは、リスク委員会で四半期に 1 度モニタリングを行っている、各ファンドのリスク調整後リターンを計測する際に用いるリターンとリスクの関係を視覚的に捉えやすいようまとめたもので、お客様の中長期の資産形成に資する商品をご提供出来ているかを確認する代表的な KPI であると考えております。なお、2018 年 12 月末現在までの過去 1 年間の推移は以下の通りです。

概況

- リターンに関しては、どの時点も 6 割以上のファンドがプラスリターンを記録しており、概ねリスクの高さに比例してリターンも高くなる傾向が見られます。2018 年の証券市場は全般的に低調でしたが、2018 年 12 月末時点も 7 割近いファンドがプラスリターンを記録しており、お客様の中長期の資産形成に資する運用商品をご提供出来ていると考えています。
- 他方、新興国通貨や株式市場の一部で大幅な調整を余儀なくされた結果、年率 10% 強のマイナスリターンを記録するファンドもあり、全ファンド単純平均のリターンは、年率 1% 前半から 6% の間で推移し、時点毎に差異が生じる結果となりました。

- リスクに関しては、全時点とも全ファンド単純平均のリスクが年率 12%後半から 14%の間で推移しており、時点毎に大きな傾向の差異は見られませんでした。また、各ファンドのリスク水準にも左程大きな傾向の変化は見られませんでした。



※各時点、設定から 3 年以上経過したファンドを対象にしております。

※リターン:各時点において、過去 3 年分の月次リターン累積値を年率換算しております。

※リスク:各時点において、過去 3 年分の月次リターンの標準偏差を年率換算しております。

以上